

シンポジウム 地域ケアと悲嘆を分かち合える場

—事件・虐待・自死などの経験から—

趣旨

大切な人を失った心の痛みを抱える人は多い。親を失った子ども、子を失った親、まだ若い配偶者を失った人、親友や愛する他者を失った人、そして自死遺族や事故・事件で家族を失った遺族など。また、虐待やいじめで死んだ子が出てしまった地域の住民など。こうした地域社会の悲嘆をどのようにケアしていくことができるのか。グリーフケアの大きな課題である。ともに悲嘆を分かちあう場づくりが求められている。

川崎市では全市民を対象とする地域包括ケアに取り組んでいるが、地域ケアに市民が積極的に参加していくには、このようなグリーフの場を広げていくことが大きな力となると考えられる。

アメリカではオレゴン州にダギーセンターがあり、子どもの悲嘆を受け止める地域ケアの場として大きな働きをしている。日本でも、すでに東京都世田谷区では「グリーフサポートせたがや」が立ち上がり、地域で悲嘆を分かち合える場づくりが進められている。昨今、多くの地域で立ち上がっている子ども食堂の試みも、そのような場づくりと通じ合うものがあるだろう。

このシンポジウムでは、こうした課題に取り組んで来られた方々のお話をうかがいながら、心の痛みをもつ人々が痛みを分かち合い、支え合っていく場が見出せるような地域社会のあり方をともに考えていきたい。

日時： 2019年3月17日（日） 13時～17時 （開場 12時30分）

場所： カルッツかわさき／中会議室1・2（合併）

<http://culttz.city.kawasaki.jp/access/>

発題：

杉山 春（ルポライター）

入江 杏（「ミシュカの森」主宰、世田谷区グリーフサポート検討委員）

小川 有閑（大正大学研究員、浄土宗寺院住職）

コメント：

竹島 正（川崎市精神保健センター所長、RISTEX「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」アドバイザー）

司会：

堀江 宗正（東京大学文学部准教授）

入場無料、事前申込不要

主催 JST/RISTEX 島菌プロジェクト（上智大学グリーフケア研究所）
「都市における援助希求の多様性に対応する公私連携ケアモデルの研究開発」

問合せ先 griefcare.symposia@gmail.com